

視察報告書

報告者氏名：木下義裕

委員会名：総務常任委員会

期間：令和2年1月20日（月）～1月21日（火）

視察都市等及び査察項目：

横浜市：ユニークベニユ어의展開について

N T T西日本：大阪データセンターについて

所感等：

◆横浜市

面積：435.43 km²

人口：3,740,944人（2019年1月1日現在）

世帯数：1,692,910世帯

市制施行：1889年（明治22年）4月1日

◆ユニークベニユ어의展開について

ユニークベニユ어とは、歴史的建造物、文化施設や公共的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のことである。

横浜市ではハードだけではなく、ソフト（アトラクション等のコンテンツ）を含め参加者に喜んでいただける提案が大切と考え、文化観光局M I C E振興課では「能楽堂」「横浜美術館」「三溪園」などでユニークベニユ어를生かした活動をしている。

今回の視察では当局からM I C Eの位置づけとして、「横浜市中期4か年計画2018－2021」の6つの戦略の内、戦略1『力強い経済成長と文化芸術創造都市の実現』と戦略4『人が、企業が集い躍動するまちづくり』にあたること、すなわち未来のまちづくり戦略に位置付けられ経済活性化の重要な役割を担っている、ことの説明を受けた。

M I C E誘致・開催支援機能の拡充を目指す中、ユニークベニユ어의意義は①誘致段階において、横浜の魅力を伝えるツール、であ

り②市内への「経済的波及効果」「社会的波及効果」を促すきっかけとしている。

次に横浜美術館におけるユニークベニューについて説明を受け意見交換をさせていただいた。横浜美術館は2019年に開館30周年を迎えた施設で、迫力のあるシンメトリーな外観と吹き抜けの開放的なグランドギャラリーが特徴である。

そのグランドギャラリーにおけるユニークベニュー（レセプション）は、平成28年から平均して年3回程度国際会議やイベント等のレセプションで実施されていた。

この3回程度の回数について横浜美術館としての本来業務を邪魔しない限度の数、ということではなく近隣のコンベンション施設（パシフィコ横浜、ホテル等）のお客様からの需要によって決まっているようであった。

また、美術館という特別な施設のため、ケータリングや花などの装飾についても美術品を傷めない工夫や苦勞を知ることができた。

今回の横浜市の視察では、国際会議や外国に繋がるようなイベントのユニークベニューでの取り組みが本市より多かったと感じた。しかし、本市の猿島や記念艦「三笠」などはまさに「ユニーク」な観光資源であり、横浜市の取り組み方や横浜市のユニークベニューは大いに参考になると感じた。また、プレツアーやアフターコンベンションの際に、横浜市との連携を強化していただきたいと思う。



◆NTT西日本

◆大阪データセンターについて

NTT西日本、大阪データセンターで情報セキュリティの現況について視察した。

現状、本市のサーバー群などの「ネットワーク機器」は「非常時の電源」「電源の水没の可能性」「保守管理委託事業者の人員等」「情報漏えいの脅威」等の課題を抱えていると考えられる。

これらのネットワーク機器が抱える課題を解決する手段は複数あるが、その一つとして企業が行っているサービスの「ハウジング」を視察した。

至極当たり前の話ではあるが視察を受け入れていただいたNTT西日本の顧客から見れば、私たちは部外者であり入館にあたり、セキュリティチェックは他の視察よりも数段レベルが高く、写真撮影は内部での意見交換・質疑に限られた。

視察では①地下の免震装置②非常用発電設備③無停電発電装置④サーバー室の4つをそれぞれ担当者の説明のもと実物を見させていただいた。

免震装置では、鉛プラグ入り積層ゴム・直動転がり支承・オイルダンパーの3つの装置でビルそのものを地震から守っているのが理解できた。

また電源に関しても外部電力が災害等により一時的な失われたとしても最低20時間（計算上は約1日半）動かすことができる仕組みをとっていることがわかった。

最後に見学したサーバー室は大切なサーバー群などのネットワーク機器が入っている部分である。入室は管理権限による静脈認証キーと私たち一人一人のカードキーによって行われた。個別入室のゲートでセンサーを使用し、「重さ」と「幅（大きさ）」のチェックによって不正入退出や不正持ち込み・持ち出しを防止していた。

今回の視察は本市が抱えている情報セキュリティ分野の課題の解決策の一つとして考えられる「ハウジング」であり、部分的に真似をできるものではない。しかし災害やアクシデントに対して行政が持っているデータや構築したシステムを二重、三重もしくは建物等を物理的に堅牢にすることが大事であることが理解できた。また非

常時になるまでその重要性に気付くことが難しいが、とても大事な事であるので、予算との兼ね合いを見ながら進めなくてはならない事だと改めて認識することができた。今後の委員会審査等で活用していきたい。

